別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	大学院の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　トクシュウカイ 学校法人徳洲会	
フリガナ 大学の名称	ショウナンカマクライリョウダイガクダイガクイン 湘南鎌倉医療大学大学院 (Graduate School of ShonanKamakura University of Medical Sciences)	
大学本部の位置	神奈川県鎌倉市山崎1195-3	
大学の目的	本学は「生命だけは平等である」という開学の理念に基づき「いつでもどこでも誰でもが最善の医療・ケアを受けられる社会の構築を目指し、日々研鑽する医療人を育成する」ことを目的として2020年4月に開学している。 大学院開設に当たっては大学の理念・目的を基盤としてさらに深く、幅広く医療職として必要な自己研鑽を続け、医療分野の実践・研究・教育の発展に寄与する人材を育成する。	
新設学部等の目的	**看護学研究科の目的** 看護学研究科においては哲学的思考をもとに高い倫理観・人間性を培い、研究の視点を持った実践者として実践現場や社会における健康課題に対応できる能力を修得する。また卓越した研究者として指導的立場に立ってリーダーシップを発揮し看護の質の改善・向上のために看護学の研究を発展的に推進する能力を修得する。さらに複雑に変貌する社会システムの構築について柔軟な判断力・思考力をもって寄与できる能力を修得する。 **博士前期課程の目的** 研究的視点を持った実践者としての能力をさらに進化させ看護専門職者として地域や他職種連携において保健医療の発展に貢献できる能力を修得する。 **博士後期課程の目的** 幅広い視野と深い学識をもって自立して研究する能力を有し、看護の質の改善・向上のためにリーダーシップをとる能力を修得する。	

新設学部等の概要									
	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	看護学研究科 [The Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Division of Nursing]								【基礎となる学部】 看護学部看護学科
	博士前期課程 [Master's Program of Nursing]	2	6	－	12	修士(看護学) [Master of Science in Nursing]	令和4年4月 第1年次	神奈川県鎌倉市山崎1195-3	14条特例の実施
	博士後期課程 [Doctoral Program of Nursing]	3	3	－	9	博士(看護学) [Doctor of Philosophy in Nursing]	同上	同上	
	計		9	－	21				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	該当なし	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	17 科目	13 科目	0 科目	30 科目	30 単位
	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	10 科目	8 科目	0 科目	18 科目	20 単位

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	7 (7)
		看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)
	既設分	該当なし	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
		計	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
	合計		11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	11 人 (11)	9 人 (9)	20 人 (20)
	技術職員	－ (－)	－ (－)	－ (－)
	図書館専門職員	1 (1)	－ (－)	1 (1)
	その他の職員	－ (－)	1 (1)	1 (1)
	計	12 (12)	10 (10)	22 (22)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	5,819.01㎡	0㎡	0㎡	5,819.01㎡	
	運動場用地	680.00㎡	0㎡	0㎡	680.00㎡	借用面積：680.00㎡
	小計	6,499.01㎡	0㎡	0㎡	6,499.01㎡	借用期間：大学開設後20年
	その他	828.71㎡	0㎡	0㎡	828.71㎡	
	合計	7,327.72㎡	0㎡	0㎡	7,327.72㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	78.79㎡ (78.79㎡)	6,674.34㎡ (6,674.34㎡)	0㎡ (0㎡)	6,753.13㎡ (6,753.13㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	4 室	10 室	5 室	1 室 (補助職員-人)	1 室 (補助職員-人)	大学全体 「語学学習施設」は「情報処理学習施設」と兼用

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	看護学研究科看護学専攻	15 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
								大学全体
	看護学研究科 看護学専攻	11,657〔1,070〕 (11,657〔1,070〕)	7,291〔5,820〕 (7,291〔5,820〕)	7,244〔5,806〕 (7,244〔5,806〕)	103 (103)	5,785 (5,785)	20 (20)	「図書」には電子図書（洋）286点を含む 「電子ジャーナル」のうち、1,438点は「メディカルオンライン ライブラリー」、5,762点は「CINAHL Plus with Full Text」の総タイトル数
	計	11,657〔1,070〕 (11,657〔1,070〕)	7,291〔5,820〕 (7,291〔5,820〕)	7,244〔5,806〕 (7,244〔5,806〕)	103 (103)	5,785 (5,785)	20 (20)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	375.36㎡	80	20,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	708.97㎡	テニスコート 1 面	－

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	－	－	－	大学全体
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	－	－	－	〃
	図書購入費	13,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	－	－	－	大学全体 電子ジャーナル、データベース、その他経費を含む
	設備購入費	7,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－	－	－	大学全体

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1,100千円	800千円	－	－	－	－	博士前期課程
	1,100千円	800千円	800千円	－	－	－	博士後期課程

学生納付金以外の維持方法の概要	寄附金、手数料収入等

既設大学等の状況	大学の名称	湘南鎌倉医療大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次 人	人		倍		
	看護学部						1.07		神奈川県鎌倉市山崎1195-3
	看護学科	4	100	－	200	学士（看護学）	1.07	令和2年度	

附属施設の概要	該当なし

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手		備考
共通科目			看護学の実践と研究　特講Ⅰ	1前	2			○			7	2					オムニバス・.共同（一部）
			看護学研究方法論Ⅰ（総論）	1前	2			○			5	4					オムニバス
			看護倫理	1後	2			○								兼1	
			臨床哲学	1後	2			○								兼1	
			看護教育論	1前	1			○								兼1	
			地域生活看護論Ⅰ	1後	2			○			3						オムニバス
			看護学研究方法論Ⅱ（統計解析）	1後	2			○								兼1	
			チーム医療論	1通		2		○								兼1	集中
			医療教育論	1前		1		○			1						
			看護管理	1後		1		○								兼1	
			臨床疫学	1後		1		○								兼1	集中
			小計（11科目）	－	13	5	0	－			10	4	0	0	0	兼7	－
専門科目	生涯発達看護学分野科目	ヘルスプロモーション科学看護学	リプロダクティブヘルス看護学特論Ｍ	1前		2		○			1						
			リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
			リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1						
		小児看護学科目	小児看護学特論Ｍ	1前		2		○			2	1					オムニバス
			小児看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2	1					オムニバス
			小児看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1	1					共同
		成人看護学科目	成人看護学特論Ｍ	1前		2		○			1						
			成人看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2						オムニバス・共同（一部）
			成人看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1	1					共同
		老年看護学科目	老年看護学特論Ｍ	1前		2		○			1						
			老年看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
			老年看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1						
	広域看護学分野科目	在宅看護学科目	在宅看護学特論Ｍ	1前		2		○			1						
			在宅看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1	1					共同
			在宅看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1	1					共同
		公衆衛生看護学科目	公衆衛生看護学特論Ｍ	1前		2		○			1						
			公衆衛生看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1	1					共同
			公衆衛生看護学演習Ⅱ	2前		2			○		1	1					共同
			小計（18科目）	－	0	36	0	－			9	4	0	0	0		－
	特別研究		看護学特別研究Ｍ	1～2通	8				○		8	4					
			小計（1科目）	－	8	0	0	－			8	4	0	0	0		－
合計（30科目）				－	21	41	0	－			10	4	0	0	0	兼7	－

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の授業科目を30単位（共通科目から必修13単位を含み16単位、専門科目14単位）以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習4単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究M8単位以上を修得し、修士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目			看護学研究法	1前	2			○			1						
			英語論文演習	1前	2				○							兼1	
			看護学の実践と研究　特講Ⅱ	1後		2		○			8	2					オムニバス・共同（一部）
			地域生活看護論Ⅱ	1後		2		○			3						オムニバス・共同（一部）
			理論看護学	1後	2			○			1						
			小計（5科目）	－	6	4	0	－			8	2	0	0	0	兼1	－
専門科目	生涯発達看護学分野科目	クリティカルヘルス看護学科目	リプロダクティブヘルス看護学特論Ｄ	1通		2		○			1						
			リプロダクティブヘルス看護学演習Ｄ	2通		2			○		1						
		小児看護学科目	小児看護学特論Ｄ	1通		2		○			2						オムニバス
			小児看護学演習Ｄ	2通		2			○		2	1					共同
		成人看護学科目	成人看護学特論Ｄ	1通		2		○			1						
			成人看護学演習Ｄ	2通		2			○		1						
		老年看護学科目	老年看護学特論Ｄ	1通		2		○			1						
			老年看護学演習Ｄ	2通		2			○		1						
	広域看護学分野科目	在宅看護学科目	在宅看護学特論Ｄ	1通		2		○			1						
			在宅看護学演習Ｄ	2通		2			○		1						
		公衆衛生看護学科目	公衆衛生看護学特論Ｄ	1通		2		○			1						
			公衆衛生看護学演習Ｄ	2通		2			○		1						
			小計（12科目）	－	0	24	0	－			7	1	0	0	0		－
	特別研究		看護学特別研究Ｄ	1～3通	8				○		9	3					
			小計（1科目）	－	8	0	0	－			9	3	0	0	0		－
合計（18科目）				－	14	28	0	－			9	3	0	0	0	兼1	－

学位又は称号	博士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の授業科目を20単位（共通科目から必修6単位、分野必修2単位《生涯発達看護学分野は「看護学の実践と研究　特講Ⅱ」、広域看護学分野は「地域生活看護論Ⅱ」》を含み計8単位、専門科目4単位）以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習2単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究Ｄ8単位以上を修得し、博士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護学の実践と研究　特講Ⅰ	看護専門職・看護研究者として、実践・研究において、指導的役割を担えるようになるために、看護学を理解するうえで基盤となる看護学発展の歴史・変遷、看護学を構成する要素・概念、主要な看護理論、看護理論と実践・研究との関係について学ぶ。さらに、実践・研究のモデル例の理解を通して、看護の実践・研究における理論的見識を深める。 （オムニバス方式／全15回） （2　森明子／6回） 主要な看護理論、実践と研究との関係。看護学の実践と研究のモデル～リプロダクティブヘルス特に不妊問題をとりまく看護実践及び研究活動からの検討。まとめ。 （3　竹本三重子・11　和田美也子／1回）（共同） 看護学の実践と研究のモデル～成人の遺伝看護、がん看護に関する看護実践及び研究活動からの検討。 （5　小山幸代／1回） 看護学の実践と研究のモデル～高齢者の健康の諸問題をとりまく看護実践及び研究活動からの検討。 （6　西村あおい／1回） 看護学の実践と研究のモデル～長期療養児と家族のケアに関する看護実践及び研究活動からの検討。 （7　野中淳子／3回） 科目のガイダンス、実践と研究に関するディスカッション。看護学発展の歴史と変遷。看護学を構成する要素・概念。 （7　野中淳子・12　米山雅子／1回）（共同） 看護学の実践と研究のモデル～小児がんの子どもと家族のケアに関する看護実践及び研究活動からの検討。 （8　福島道子／1回） 看護学の実践と研究のモデル～地域への復帰や訪問による支援など在宅医療保健福祉システムに関する看護実践及び研究活動からの検討。 （9　北岡英子／1回） 看護学の実践と研究のモデル～公衆衛生の観点からの子どもの育ちと健康に関する看護実践及び研究活動からの検討。	オムニバス方式・共同（一部）
	看護学研究方法論Ⅰ（総論）	今後の看護科学発展と看護実践の質向上のために必要とされる学術的な研究的視点を育成する。また、自らの看護研究に取り組むための学術的な研究能力を開発するために必要とされる研究全般の知識基盤を獲得する。さらに現存する質の高い看護研究論文を批判的に分析する能力を修得し、看護研究の知的評価ができるようにする。加えて自らの専門領域を開発するために必要とされる研究課題を見い出し、追究するための学術的視点を開発する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目		（オムニバス方式／全15回） （2　森明子／1回） 量的研究法②介入研究 （4　眞鍋知子／1回） 量的研究法①実験研究 （7　野中淳子／2回） 研究における倫理①研究における不正行為。研究における倫理②研究における倫理的配慮と倫理審査。 （9　北岡英子／1回） 質的研究法①グラウンデッドセオリーアプローチ （10　黒田裕子／6回） ガイダンス。研究疑問と研究デザインについて。システマティックレビュー。研究論文のクリティーク。看護研究の動向。まとめ。 （11　和田美也子／1回） 量的研究法⑤尺度開発 （12　米山雅子／1回） 質的研究法②エスノグラフィー （13　小森直美／1回） 量的研究法③評価研究 （14　入江晶子／1回） 量的研究法④調査開発	
	看護倫理	本科目「看護倫理」では、倫理的看護実践に必要な知識や諸概念を学び、患者や患者家族の人権擁護、知る権利および患者のQOLの向上などの側面から、看護実践における倫理について探求することを目的とする。授業では、看護倫理の諸概念、基本となる倫理理論や倫理原則、および倫理への接近法を学び、具体的なケースを検討することを通して、看護実践の倫理を考えていく。	
	臨床哲学	「臨床哲学」とは何か？人間の生死にかかわるところの、普遍的な哲学的思考を問いただす学問分野である。患者―治療者という医療現場において、その本質の在り方と両者の関係性を根底に据えて、人間の実存を哲学することを目指している。そこに展開する重要なテーマは、結局のところ、「自己」と「他者」という二項関係をどのようにとらえていくのか？ということなる。古代ギリシャ哲学から現代哲学の視野の中で、「臨床哲学」に関する様々な基本文献を探索していく。授業は、双方向の演習ゼミで進めていく。	
	看護教育論	生涯教育としての看護基礎教育及び看護継続教育の特徴、教育の機能と役割を理解するとともに、生涯教育としての人材育成のあり方をグローバルな視点から探究し続ける能力を育成する。さらに、看護教育プログラムの作成、教育システム教授学習、教育方法、評価についての基本的理論を理解するとともに、教育における倫理的課題に対応できる能力を修得する。	
	地域生活看護論Ⅰ	この科目では地域で暮らす高齢者の健康を維持しつつ、生きがいを持って生活していく、あるいは障害・疾病を持ちつつ自宅で暮らしていく高齢者に対して行政・保健・医療・福祉等においてどのような支援がなされているのか現状を把握する。また離島・へき地における高齢者の生活や看護の現状ついても理解を深める。老年看護学・在宅看護学・公衆衛生看護学が連携して講義・演習し、現状をどのように変革させると、高齢者へのより良い生活援助・ケアにつながるのか等について探索し今後の高齢社会におけるケアのありようを考える一助とする。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		（オムニバス方式／全15回） （5　小山幸代／4回） 高齢者の特徴と生活支援。退院支援と地域連携。高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア。 （8　福島道子／4回） 地域での生活とアドバンス・ケア・プランニング。地域生活支援と権利擁護。高齢者の在宅ケアの実際。地域包括ケアシステムの実際。 （9　北岡英子／7回） 地域における高齢者の生活とヘルスプロモーション。地域における保健福祉行政機関の役割と連携。地域における住民組織活動。離島・へき地における高齢者の生活。離島・へき地における保健・医療・福祉の現状。地域生活支援の課題。まとめ。	
	看護学研究方法論Ⅱ（統計解析）	看護学では量的・質的研究手法を用いた研究が主流となっており、その進歩に大きな役割を果たしている。この授業では、量的研究の方法論を主軸に研究の進め方を理解するとともに、その基本的な技術を習得するために、研究の枠組み、論文の読み方、研究デザインとデータの収集、論文の書き方、基本的な統計解析方法について講義と演習を行う。	
	チーム医療論	安全・安心で確実な医療を提供していくためには、患者中心の医療の推進、良質な医療の実践、各医療機関の理念達成に向けた安定した組織運営が不可欠である。良質な医療の実践のためには、しっかりとしたチーム医療体制を構築していくことが重要である。チーム医療における各医療職の役割、チーム医療で必要とされる知識や技術について講義し、グループワークやグループディスカッションを通して問題解決能力を養っていく。	
	医療教育論	質の高い医療の維持に必要な医療者教育の基本と応用を提供する。教育の基本として医療者教育理論、学習者評価の方法、カリキュラムとシラバスの構成、新しい教育方略を取り上げる。後半ではノンテクニカルスキルとして状況認識、意思決定、メタ認知、チームワーク、リーダーシップ、個人の限界の管理を学ぶ。さらにコミュニケーション、医療プロフェッショナリズム、医療安全とリスク回避について知識を整理し、現場へいかに応用するかを考える。授業形態としてアクティブ・ラーニングを念頭に置き、KJ法や話し合い学習法などを取り入れる。	
	看護管理	地域の人々の健康と生活の質の向上に向けた、多職種チームでの保健医療の質の向上に寄与するために、看護専門職として必要な看護管理に関する基礎的理論を学習する。最初に、学生自身の体験をもとに看護管理の本質と視座を探求する。その後、リーダーシップとマネジメント、組織論、変革とイノベーション、意思決定、人材育成、組織文化、医療組織の経営の各テーマに沿って学習を進める。学生のプレゼンテーションと討議を中心に進める。	
	臨床疫学	臨床疫学では、患者集団における病気の診断、治療管理や予防、予後などに焦点を当てる。臨床疫学において、日常の臨床のなかに潜んでいる何気ない疑問（クリニカルクエスチョン）から研究疑問(リサーチクエスチョン)を導き出し、研究仮説を立て、適切な研究デザインを構築します。その上で、利用可能なデータからこのリサーチクエスチョンに対応した分析結果を引き出し、臨床的に妥当な解釈を行なうことをめざします。本講義では、こうした研究プロセスに不可欠となる理論や方法論を提供する。 また、これらの研究を正しく理解し、臨床現場に応用する手法であるEvidence based medicineについての学習や演習を行う。	
	リプロダクティブヘルス看護学特論Ｍ	人間の性と生殖の仕組み、人間の性と生殖の仕組みと生涯にわたる健康との関連、リプロダクティブヘルスの課題や問題を理解するために必要な基礎的知識、理論や概念について学修し、リプロダクティブヘルス看護に必要な基礎的専門能力を養う。出生前から胎生期、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期に至る生涯にわたってのリプロダクティブヘルスの課題や問題に対し、予防医療から先端医療技術による治療まで、幅広いパースペクティブでとらえる。 1.人間の性と生殖の仕組みと生涯にわたる健康との関連、リプロダクティブヘルスの課題や問題を理解する。 2.リプロダクティブヘルスを支援するために必要な概念、理論について調べ、考察する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達看護学分野科目	リプロダクティブヘルス看護学科目	リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅰ	リプロダクティブヘルスにおける課題や問題の予防・維持増進・回復に着目し、対象者のライフステージや、特定のヘルスケアニーズに対する保健医療および看護の特徴を分析し、ケアモデルを検討する。ライフステージは、とくに思春期以降、成熟期、更年期の、性と生殖の仕組みに大きな変化が生じる時期に着目する。特定のヘルスケアニーズは、受胎調節、不妊、妊娠/出産、リプロダクティブヘルスと関連する全身性もしくは泌尿生殖器系疾患、障がい等に着目する。 1.特定のライフステージやリプロダクティブヘルスの課題・問題に焦点を当て、文献検討を通じて分析する。 2.特定のライフステージやリプロダクティブヘルスの課題・問題に対するケアモデル、支援システムを検討する。	
			リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱ	リプロダクティブヘルスにおける看護実践の理解を深めるとともに、研究のトピックス、方法を探求し、リプロダクテイブヘルスの向上に役立つ実践と研究における課題を明確にする能力を養う。文献検討及びフィールドワークを行う。 1.リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅰで検討したケアモデルの実践可能性や研究課題となりうるトピックスについて検討する。 2.1.の過程を踏まえ、自身の研究課題、研究計画へと発展させる。	
		小児看護学科目	小児看護学特論M	小児看護学領域における対象理解と看護の基盤となる理論や概念について、その構築者の背景や理論の発展を踏まえ、小児看護の実践を支える理論等の意義を考察し看護に必要な基礎的専門能力を養う。さらに、小児医療における小児看護の歴史や変遷を踏まえ、近年の子どもと家族を取り巻く社会や小児医療の現状および研究動向から最近の知見を分析し、研究や実践への適応・活用に関する分析能力と理論的思考を培う。 （オムニバス方式／全15回） （6　西村あをい／2回） 社会・医療の変遷から子どもと家族を取り巻く現状と課題。子どもとその家族を取り巻くネットワークの理解と援助に向けた理論。 （7　野中淳子／11回） 科目のガイダンス／大学院で小児看護学を学ぶ意義。成長発達を遂げる子どもの理解に関する理論。乳幼児の成長発達の理解に関する理論。学童期・思春期の成長発達の理解に関する理論。子どもとその家族の理解とその援助のための理論・概念。課題学習、プレゼンテーション。まとめ。 （12　米山雅子／2回） 子どもの権利とその擁護　歴史・変遷。	オムニバス方式
			小児看護学演習Ⅰ	子どもの様々な健康問題や健康課題にかかわる諸要因のうち、学習者の関心分野はもちろんのこと、成長発達や健康問題や健康課題に関連したストレス等に焦点をおき、医療などの支援を受けるときの子どもと家族特有な苦痛やストレス反応を中心に、個々の子どもの発達段階や子どもや家族を取り巻く状況を考慮した権利擁護、症状マネジメント、多職種連携や療養環境の整備の観点から看護支援システム検討する。検討に際し、既存の小児医療・看護研究動向を外観し、最近の知見を分析・考察するとともに批判的能力を培う。 （オムニバス方式／全15回） （6　西村あをい／4回） 健康課題をもつ子どもと家族の療養環境に関する文献検討、および援助の検討。健康課題をもつ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討、および援助の検討。 （7　野中淳子／6回） 科目のガイダンス／講義の目的、学習方法について／健康問題や健康課題をもつ子どもと家族の理解。健康問題や健康課題をもつ子どもと家族が抱える諸問題に関する文献検討、および援助の検討。健康問題や健康課題をもつ子どもと家族への看護支援体制の検討。プレゼンテーション、まとめ。 （12　米山雅子／5回） 健康問題や健康課題をもつ子どもと家族への権利擁護に関する文献検討、および援助の検討。健康課題をもつ子どもの症状マネジメントに関する文献検討、および援助の検討。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			小児看護学演習Ⅱ	学習者がこれまで体験した小児看護の実践やフィールドワーク等から看護における現象の解釈・意味づけを行い、健康問題・課題をもつ子どもとその家族への看護に関する看護実践ケアモデルを構築する。ケアモデルには、子どもとその家族の苦痛やストレス緩和、説明、子どもや家族のニーズを充足しうる看護師のかかわりや多職種との連携調整の要素等、看護ケアのエビデンスを盛り込み2事例以上の看護援助を分析・検討し、新たなケアモデルを生成する能力を養う。 1.学習者の経験および小児看護学演習Ⅰで検討し学習した内容および実践可能性や研究課題となりうる事例について検討する。 2. フィールドワークを通して作成したケアモデルについて自分の考えを述べることができる。 3.1～2の過程を踏まえ、自身の研究課題、研究計画へと発展させることができる。	共同
		成人看護学科目	成人看護学特論M	成人期にある人の身体、心理社会的特性と健康課題を理解するために必要な基礎的知識、アセスメントの基盤となる概念や理論について学修し、成人看護に必要な基礎的専門能力を養う。 1.成人看護学の対象となる患者の体験を理解するために必要な諸概念、理論を理解し、活用できる能力を養う。	
			成人看護学演習Ⅰ	成人の健康課題である生活習慣病、がん、遺伝性疾患や、急性期、慢性期、終末期などの病期に即した主要な看護実践モデルについて考察し、質の高い看護を提供するための方略や課題に関する理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （3　竹本三重子・4　眞鍋知子／2回）（共同） ガイダンス、学習者のレディネスの把握。まとめ。 （3　竹本三重子／7回） 終末期における主要な看護モデルの分析と考察。遺伝性疾患における主要な看護モデルの分析と考察。がん看護における主要な看護モデルの分析と考察。 （4　眞鍋知子／6回） 急性期における主要な看護モデルの分析と考察。回復期における主要な看護モデルの分析と考察。慢性期における主要な看護モデルの分析と考察。	オムニバス方式・共同（一部）
			成人看護学演習Ⅱ	自らの経験や関心に基づき、研究で扱う問題や課題および現象について知識を深めるとともに、関心領域の研究課題に関連する先行研究を吟味する。また自らの研究課題に応じた研究方法論を検討する。 研究方法を検討し、自らの研究課題に応じた研究計画を検討する。	共同
		老年看護学科目	老年看護学特論M	老年期を生きる人々(高齢者）の特性について、エイジング、生涯発達の観点から理解を深め、特性を踏まえた看護を実践するためのストレングスやコンフォートなどの重要概念、老年看護に有用な理論・モデルについて学修する。また、エイジズムや高齢者虐待などの倫理的課題の背景について理解を深め倫理調整について探求するとともに、老年看護実践・教育・研究の課題について検討する。	
			老年看護学演習Ⅰ	様々な健康状態における高齢者と家族を支える内外の保健医療福祉システムについて理解を深めるとともに、地域包括ケアシステム・認知症のある人と家族のための施策の現状について検討し、看護職者に求められる役割について探求する。 また、様々な制度やサポートシステムを踏まえて、高齢者が住み慣れた地域で暮らすことを支える支援のあり方について検討する。	
			老年看護学演習Ⅱ	老年看護におけるエビデンスベースド・プラクテイス、バリューベースド・プラクテイスについて理解を深めるとともに、特定の健康状態の事例を想定して、最新の知識・技術を活用したベストプラクテイスについて探求する。また、認知症のある高齢者と家族への看護については、高齢者グループホーム・認知症病棟・急性期病院などでのフィールドワークにより、現状を把握し、課題と今後の取り組みについて検討する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域看護学分野科目	在宅看護学科目	在宅看護学特論M	在宅看護の目的・理念、対象特性、看護援助、制度・政策等、在宅看護の課題や問題を理解するために必要な基礎的知識、理論や概念について学修し、在宅看護に必要な基礎的専門能力を養う。在宅療養者や看護援助、法令・制度の今日の動向を在宅医療や保健・福祉活動も踏まえて幅広くとらえていく。 1.在宅看護の目的および基盤となる理念を理解する。 2.在宅看護における対象特性を理解する。 3.在宅療養者をとりまく看護援助および法令・制度の動向を理解する。	
			在宅看護学演習Ⅰ	在宅看護学特論を基礎とし、文献検討を通して在宅看護の諸問題・課題を明らかにしていく。文献検討は、在宅医療・保健・福祉活動、多職種連携等幅広い視野から行うこととし、かつ、目的・理念、対象特性(個人・家族)、看護援助、制度・政策等、多面的に検討していく。 1.在宅看護の諸問題・課題を文献検討を通して考察する。 2.在宅看護に関連する保健・医療・福祉の諸問題・課題を文献検討を通して考察する。	共同
			在宅看護学演習Ⅱ	在宅看護実践の理解を深めるとともに、研究のトピックス、方法を探求し、在宅看護の向上に役立つ実践と研究における課題を明確にする能力を養う。 1.在宅看護学演習Ⅰで行った文献検討に基づき、研究課題となりうるトピックスについて検討する。 2.1.の過程を踏まえ、自身の研究課題、研究計画へと発展させる。	共同
		公衆衛生看護学科目	公衆衛生看護学特論M	地域で生活する個人・家族・集団・地域を対象に健康課題や要因を探求し、予防対策、支援方法を考察し、他機関・職種との連携・協働のあり方などを検討する。さらに地域ケアシステム構築のために必要な概念・諸理論・モデルについて学修し、公衆衛生看護学に必要な基本的専門能力を養う。 ・地域で生活する個人・家族・集団・地域を対象に健康課題や要因について理解できる。 ・地域での課題解決のための方策、他機関・職種との連携のあり方が理解できる。 ・地域ケアシステム構築に必要な理論・モデルについて理解できる。	
			公衆衛生看護学演習Ⅰ	生涯にわたり健康を維持していくための方策を学ぶために公衆衛生看護学領域における基本的概念であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、コミュニティエンパワメント等、さらに個人・家族・地域のアセスメントに関する諸理論・モデルについて学修し、それらを活用した支援方法を考察することで看護実践能力を養う。 ・公衆衛生看護学領域における基本的概念について実例を用いてプレゼンテーションができる。 ・公衆衛生看護学の対象への支援方法について実例を用いてプレゼンテーションができる。	共同
			公衆衛生看護学演習Ⅱ	公衆衛生看護に関わる保健・医療・福祉システムのトピックについて国内外の文献を系統的に検索・吟味し、体系的に整理・分析する。これらの検討や自身の看護実践を踏まえ探求すべき研究課題を焦点化するとともに研究方法について検討する。 ・公衆衛生看護に関わる保健・医療・福祉システムのトピックについて国内外の文献をクリティークし、プレゼンテーションすることができる。 ・自己の研究課題を明確にし、研究方法を検討できる。	共同
				各看護学領域において、研究疑問に関する先行研究を批判的に検討し、研究課題を明確にし、研究計画を立案する。研究計画に基づき、データの収集・分析を行い、研究論文を作成する。その学修過程を通じ、看護学研究に求められる基礎的能力を修得する。また、各看護学領域における研究活動に関する自らの課題と今後の取り組みについて検討する。 (2　森明子) リプロダクティブヘルスにおける課題や問題の予防・維持増進・回復に関する研究課題を追求することを通じ、人間の生涯にわたる健康支援やリプロダクティブヘルス看護学実践の進展に通じる看護や研究法を修得する。研究計画書から修士論文の作成までの一連の研究課程を指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究	看護学特別研究M	(4　眞鍋知子) 健康障害を持ちながら生活する成人期の人々で、危機的な状況あるいは慢性的な疾患を持った患者とその家族や看護実践を行っている看護師を対象とした調査研究や実験研究、質的記述的研究を指導する。また、治療を受ける患者のみならず、治療後の患者や治療効果が期待できなくなった患者や家族への継続ケアにも焦点を当てる。さらに健康障害を持つ成人期にある人々とその家族の援助の基本となる概念および理論を理解し、それらの概念・理論が成人看護学においてどのような適用が可能かを検討する。看護実践をとおして見えてきた現象から看護課題を導き出した看護課題について、文献検討を踏まえて研究課題にし、研究方法、データ収集、分析、考察、論文作成ができるように指導する。 (5　小山幸代) 老年看護学領域における学生自身の研究疑問を基に、一連の研究過程に取りくめるよう指導する。具体的には、先行研究の批判的分析および研究計画立案を通して、研究の新規性、研究目的に適した研究デザインと研究方法の選択、倫理的配慮について指導するとともに、老年看護学分野の研究において有用な研究方法について教授する。データ収集・分析においてはその妥当性と信頼性の確保について、修士論文執筆においては論理的一貫性の確保について、検討できるように指導する。 (6　西村あをい) 疾患や障がいのために医療依存度が高い状態で療養する子どもと家族に関連した分野において、地域における小児看護の役割や家族支援のあり方、多職種が連携・協働するための看護課題を明確にし、研究計画書から修士論文の作成・発表までの一連の研究過程を指導する。 (7　野中淳子) 健康問題や健康課題をもつ子どもとその家族に関連した分野において、子どもや家族のQOL向上やセルフケア向上を目指した実践に通じる看護に焦点化した看護研究課題を明確にし、研究計画に基づいて調査や実験等を行い、その結果を修士論文としてまとめ発表する一連の研究過程を指導する。 (8　福島道子) 在宅看護における研究課題を設定する際は、大学院生の実践経験を研究課題として昇華させる過程を重視する。また、昨今の在宅看護の動向をふまえ、在宅療養者支援に留まらず、家族支援、退院支援、地域包括ケアシステムの構築、多職種連携といった広い視野からの探求を指導していく。また、研究計画から修士論文作成の過程においては、研究結果を実践に還元し、実践に変化をもたらすことを意識化させる。 (9　北岡英子) 地域で生活する人々への個別支援や集団・地域全体を対象とした地域の健康づくり、予防的支援、健康危機管理など公衆衛生看護学における研究課題に取り組み、修士論文を作成する。文献検討、計画書作成、研究倫理審査委員会への申請、研究フィールドの開拓、データ収集・分析、中間発表、論文作成までの一連の過程が達成できるように指導する。 (10　黒田裕子) 成人期にある人々の健康維持、健康増進、そして、急性・慢性の健康状態の回復とリハビリテーションに関わるあらゆる問題に対して看護学の視点から特定の研究課題を明らかにし、卓越した研究能力及び研究技法を獲得できるように指導する。実際のフィールドに存在する現象を探究することを通して得られた研究疑問から始めて研究計画書を作成し、修士論文としてまとめて発表することができる能力を修得できるように指導する。 (11　和田美也子) あらゆる病期にあるがん患者やその家族、またがん患者をケアする看護師を対象にした、質的記述的研究や調査研究を指導する。学生自らの関心に基づき、文献検討を踏まえて、研究目的に即した研究方法、データ収集、分析、考察、論文作成ができるように指導する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(12　米山雅子) さまざまな健康課題や問題を持つ子どもや家族への看護実践経験を通して得た子どもや家族の権利擁護、子どもの主体性を育む看護などに関連した研究課題・疑問について、子どもや家族の健康課題や問題の解消、小児看護実践の質の向けて、研究計画書作成、研究手法や倫理的配慮を学ぶとともに研究に取り組み、修士論文作成までの研究プロセスを指導する。 (13　小森直美) 健康問題や障害等、療養支援を必要とする地域で生きる人々の生活とQOLの維持・向上を追求することを通じて、看護実践や退院支援、多職種連携・協働に関わる研究ができるように研究計画から論文作成に至るまで指導する。 (14　入江晶子) すべてのライフステージ・健康レベルにある個人・家族集団・組織・地域を対象として、健康問題の予防や解決を図る公衆衛生看護の方法論を基盤に、対象に沿った支援を行う実践能力を修得できるように研究を指導する。自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成し、研究活動の成果を修士論文として作成できるよう指導する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究法	今後の看護科学発展と看護実践の質向上のために必要とされる学術的な研究的視点を育成する。また、自らの看護研究に取り組むための学術的な研究能力を開発するために必要とされる研究全般の知識基盤を獲得する。さらに現存する質の高い看護研究論文を批判的に分析する能力を修得し、看護研究の知的評価ができるようにする。加えて自らの専門領域を開発するために必要とされる研究課題を見い出し、追究するための学術的視点を開発する。	
	英語論文演習	英語アカデミックライティングやライティングスキルの基本的知識の確認から始めて、次に論理的思考の段階的なトレーニングを通じて説得力のある構成の整った論文要旨の作成や研究論文構成を学ぶ。この演習型講義では、プロセスライティングの手法を使い、教員からの個別フィードバックと学生が互いに書いたものを批評し合う機会を設定して、この双方から英語論文作成力と建設的批評力を持つ読み手になるための技術を磨いていく。	
	看護学の実践と研究　特講Ⅱ	看護学における研究課題を見出し自立して研究できる能力を養うために、看護現象に関する理論開発の演繹的な方法である概念分析について学ぶ。さらに、看護の理論的実践に必要なエビデンスの考え方と研究法との関連を学ぶ。看護現象に対し、概念や理論を用いること、また、それらを看護実践へ適用することを理解する。 （オムニバス方式/全15回） （1　森明子／3回） 科目のガイダンス。看護学の実践と研究とは。リプロダクティブヘルス看護学と概念・理論の選択、実践への適用。まとめ。 （2　眞鍋知子・9　和田美也子／1回）（共同） 成人看護学と概念・理論の選択、実践への適用。 （3　小山幸代／1回） 老年看護学と概念・理論の選択、実践への適用。 （4　西村あおい／1回） 小児看護学（とくに地域・在宅）と概念・理論の選択、実践への適用。 （5　野中淳子・10　米山雅子／1回）（共同） 小児看護学（とくにがん医療）と概念・理論の選択、実践への適用。 （6　福島道子／1回） 在宅看護学と概念・理論の選択、実践への適用。 （7　北岡英子／1回） 公衆衛生看護学と概念・理論の選択、実践への適用。 （8　黒田裕子／6回） 概念分析の方法と進め方。概念分析の論文の吟味。自分の研究テーマに関連した概念の選定と概念分析の実施。	オムニバス方式・共同（一部）
	地域生活看護論Ⅱ	地域で暮らす高齢者の健康の維持、生きがいを持った生活の支援、あるいは障害・疾病を持って自宅で暮らす高齢者への支援についての理解を基盤として、自身の研究にも活用できる内容について個々の学生が学修した内容を例題に取り上げ、現状をどのように変革させると高齢者が暮らしやすい社会に変革できるのか検討を深める。また今後の高齢社会における健康危機管理のありよう、ケア介入のあり方についても検討する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
				（オムニバス方式/全15回） （3　小山幸代・6　福島道子・7　北岡英子／5回）（共同） 地域で暮らす高齢者への生活支援とは。地域生活における健康危機管理とは。地域生活における健康危機管理の実際。健康危機への予防と対策。健康危機への介入方法。 （3　小山幸代／3回） 地域で暮らす高齢者の課題。 （6　福島道子／4回） 地域で暮らす療養者支援とは。地域で暮らす療養者支援の課題。 （7　北岡英子／3回） 地域で暮らす人々への行政・保健・福祉職の支援とは。地域で暮らす人々への行政・保健・福祉職の課題。	
			理論看護学	科学哲学の起源から発展の経緯及び主要な科学哲学を理解することを通して、看護科学哲学を開発するための学術的能力を修得できるようにする。さらに、今日までに開発されてきた主要な看護理論を学術的に理解することによって看護科学の発展と今後開発するべき看護理論の方向性を考察することができる能力を修得できるようにする。加えて、看護実践の質向上に必須な中範囲理論を批判的に分析し、考察することができる能力を修得できるようにする。	
		リプロダクティブヘルス看護学科目	リプロダクティブヘルス看護学特論Ｄ	リプロダクティブヘルス看護学の視点から研究課題を見出し、テーマを追究するための基礎的能力を養う。特に、人の生涯において大きな出来事の一つである生殖の周辺期の健康、その家族の健康の問題や課題に関連するさまざまな現象を理解するための理論や概念について、学習者の関心に応じた領域で、国内外の知見に広く深く基づき分析的に理解する。同時に関心領域の看護学の発展や展望について考察する。 1.リプロダクティブヘルスにおける問題や課題に対し、最新の知見、エビデンスを踏まえて看護を論考する。 2.リプロダクティブヘルスにおける問題や課題について、理論や概念を用いて分析的に理解する。	
			リプロダクティブヘルス看護学演習Ｄ	リプロダクティブヘルス看護学特論の学修を踏まえ、自らの経験や関心に基づき、看護の研究で扱う問題や課題および現象について知識を深めるとともに、自立して研究活動を行うことができる高度な研究能力を養う。また、関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。さらに研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、自らの研究課題に応じた研究方法論を検討する。 １．関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。 2. 研究方法を検討し、自らの研究課題に応じた研究計画を検討する。	
		小児看護学科目	小児看護学特論Ｄ	子どもと家族およびその周辺における幅広い小児看護学の観点から、研究課題を見出し、テーマを追究するための基礎的能力を養う。特に、子どもとその家族の健康問題や健康課題に関連する様々な現象を理解するための理論や概念を活用し、学習者の関心や経験を踏まえた領域で、国内外の知見から多角的に分析的・考察する。同時に関心領域の小児看護学の発展や展望について考察する。 （オムニバス方式／全15回） （4　西村あをい／全5回） 子どもの様々な健康問題と看護課題の様相。小児看護学に関連する主要な概念。子どもと家族に関する支援アプローチの知見・動向。研究テーマ領域の最新の研究の動向。エビデンスに基づく研究課題の明確化。 （5　野中淳子／全10回） 科目ガイダンス／小児看護領域における問題や課題。子どもの様々な健康問題と看護課題の様相。小児看護学に関連する主要な概念。子どもと家族に関する支援アプローチの知見・動向。研究テーマ領域の最新の研究の動向。エビデンスに基づく研究課題の明確化。まとめ。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達看護学分野科目		小児看護学演習Ｄ	小児看護学特論の学修を踏まえ、自らの経験や関心に基づき、看護の研究で扱う問題や課題および看護現象について知識を深める。また、関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。さらに研究デザイン、研究方法論や分析方法についての理解を深め、自らの研究課題に応じた研究計画書を立案する。この一連のプロセスを通じて、自立して研究活動を行うことができる高度な研究能力を養う。 1. 関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。 2. 研究方法を検討し、自らの研究課題に応じた研究計画を検討する。	共同
		成人看護学科目	成人看護学特論Ｄ	急性期看護学・回復期看護学・慢性期看護学に渡る幅広い成人看護学の視点から最新の看護実践分野に即した研究課題を見出し、テーマを追究するための基礎的能力を養う。とりわけ、青年期から初老期にいたるまでの人々の健康および、それらの人々の家族の健康に関連する様々な現象を理解するための概念や中範囲理論について、学修者の関心に応じた領域で、国内外の知見に広く深く基づき分析的に理解する。同時に関心領域の看護学の発展や展望について考察する。 1. 急性期看護学・回復期看護学・慢性期看護学に渡る幅広い成人看護学における問題や課題に対し、最新の知見、エビデンスを踏まえて看護を論考する。 2. 急性期看護学・回復期看護学・慢性期看護学に渡る幅広い成人看護学における問題や課題について、理論や概念を用いて分析的に理解する。	
			成人看護学演習Ｄ	成人看護学特論の学修を踏まえ、自らの経験や関心に基づき、看護の研究で扱う問題や課題および現象について知識を深めるとともに、自立して研究活動を行うことができる高度な研究能力を養う。また、関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。さらに研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、自らの研究課題に応じた研究方法論を検討する。 1. 関心領域の研究課題に関連する研究論文の批判的検討を行い、先行研究をレヴューする。 2. 研究方法を検討し、自らの研究課題に応じた研究計画を検討する。	
		老年看護学科目	老年看護学特論Ｄ	老年期を生きる人々の健康的な生活を支える保健医療・福祉システムの現状と課題について検討し、課題解決に寄与する老年学領域を理解する。また、老年学領域を概観し、老年看護学の位置づけについて探求する。さらに、老年看護学を特徴づける主要概念とは何かについて論考し、自らの関心テーマに関連する概念を取り上げ、概念分析を行うとともに、学問上の課題について考察する。	
			老年看護学演習Ｄ	老年看護学特論の学修を踏まえ、老年看護学の発展に寄与する研究課題に取り組むための研究方法論を修得する。まず、自らの関心テーマに関する老年看護学研究ならびに他の老年学分野における学術論文において適用されている理論やモデル、用いられてる研究方法論について理解するとともに、革新的な研究デザインや研究方法について検討する。さらに、自らの研究疑問に関する先行研究のシステマテイックレビューを実施し、今後の研究課題について探求する。	
			在宅看護学特論Ｄ	在宅看護学の視点から研究課題を見出し、テーマを追究するための基礎的能力を養う。学修者の関心領域に焦点を当て、国内外の知見を分析的に理解する。同時に関心領域の看護学の発展や展望について考察する。 1.在宅看護の問題・課題に対し、自身の関心領域に焦点を当て、最新の内外の知見、エビデンスを踏まえて看護を論考する。 2.在宅看護の問題・課題について、自身の関心領域に焦点を当て、理論や概念を用いて分析的に理解する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域看護学分野科目	在宅看護学科目	在宅看護学演習Ｄ	在宅看護学特論の学修を踏まえ、自らの経験や関心に基づき、看護の研究で扱う問題や課題および現象について知識を深めるとともに、自立して研究活動を行うことができる高度な研究能力を養う。また、関心領域の研究課題に関連する内外の研究論文の批判的検討を行う。さらに研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、自らの研究課題に応じた研究方法論を検討する。 1. 関心領域の研究課題に関連する内外の研究論文の批判的検討を行う。 2. 研究方法を検討し、自らの研究課題に応じた研究計画を検討する。	
		公衆衛生看護学科目	公衆衛生看護学特論Ｄ	公衆衛生看護の様々な対象や健康レベルにおける健康課題とその関連要因についてデータを収集し、分析し、保健・医療・福祉を統合した支援や地域ケアシステム構築へ向けた研究の方向性を探求する。 公衆衛生看護領域の現状より課題を把握し、研究的視点で分析するなど研究者としての視点を修得する。 ・文献などから地域の対象や健康レベルに沿った健康課題とその要因について根拠をもって説明できる。 ・保健・医療・福祉を統合した支援や地域ケアシステム構築へ向けた研究の方向性、方法について述べることができる。	
			公衆衛生看護学演習Ｄ	公衆衛生看護学領域における研究課題を抽出し、関連する国内外の文献検討やフィールドワーク，自己の実践などを通して、研究課題を明確にする。さらに博士論文の研究につながる知見および研究方法を探求する。 ・国内外の文献検討やフィールドワークから研究課題を抽出することができる。 ・博士論文の研究につながる知見および研究方法を探求することができる。	
				各看護学領域における特論・演習の学修を踏まえ、各領域の看護学の実践・教育に寄与し、看護学の学術的発展に貢献しうる研究計画を検討し、研究フィールドの開拓と調整を行う。研究計画に基づき、データの収集・分析を行い、研究論文として論述する。博士論文に取り組む過程を通して研究者として継続的に自立して研究を行うための能力を修得する。 (1　森明子) 人の生涯における出来事の一つであるリプロダクション(生殖)の周辺期にある女性とその家族の健康の課題や問題の中から研究課題を明確化する。研究目的に即した研究方法を検討し、研究計画書を作成する。研究に必要なフィールドを開拓、調整し、研究計画に基づいて調査や実験（介入）を行い、その結果を分析、考察し、博士論文を作成し、発表できるよう指導する。 (2　眞鍋知子) 健康障害を持ちながら生活する成人期の患者や家族への看護実践を通した看護アプローチ方法やケアモデルの構築、尺度開発などより良いケアを実践するための研究を指導する。学生が実践した看護から見えてきた現象から新規性のある研究課題を導き出し、文献検討をとおして高度な看護実践に寄与できるという研究の意義を意識しながら進める。また、研究目的に即した研究方法、データ収集、分析、考察、論文作成ができるように指導する。博士論文に取り組む全過程において、研究者としてふさわしい倫理的感受性と態度を養うことができるように指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究	看護学特別研究Ｄ	(3　小山幸代) 老年看護学領域における学生自身の研究疑問を優先するが、特に認知症のある高齢者の看護、高齢者とのコミュニケーションに関する研究課題およびそれらに適したエスノメソドロジーなどの質的研究を中心に指導する。本科目に先立って学修した研究課題に関する概念分析およびシステマテイックレビューの結果を踏まえて、新規性および独自性のある研究計画が立案できるよう指導する。データ収集・分析の過程においては、妥当性・信頼性確保の観点から指導を行う。また、全研究過程を通して、老年看護学研究を担う研究者としての倫理的態度や独立して研究を行うため自らの課題について明確にできるよう指導する。 (4　西村あをい) 地域で療養する医療依存度の高い子どもと家族のケアや多職種連携・協働上の課題から研究課題を明確化する。研究目的に即した研究方法を検討し、研究計画書を作成する。研究に必要なフィールドを開拓、調整し、研究計画に基づいて調査や実験（介入）を行い、その結果を分析、考察し、博士論文を作成し、発表できるよう指導する。 (5　野中淳子) 子どもとその家族における健康問題や健康課題で、特にあらゆる病期の小児がんの子どもと家族のケアおよびQOL、それにかかわる医療職者に関連したケアの向上に寄与する研究を指導する。研究活動遂行に向けては研究計画書を精選作成し、研究に必要なフィールドの開拓と調整、倫理審査申請を通じ研究協力者への倫理的配慮を吟味し、研究者としてふさわしい倫理的態度、さらに学習者の研究課題や研究計画に基づいて調査や実験等の研究活動を行い、研究遂行能力を高めることができ、その結果を博士論文としてまとめ発表できるよう指導する。 (6　福島道子) 在宅看護の問題・課題に関連する自身の研究課題を明確にする過程では、在宅療養者の個別支援に留まらず、昨今の在宅看護学の動向をふまえ、家族支援、退院支援、地域包括ケアシステムの構築、多職種連携といった広範な視点から問題・課題を探求することを指導する。また、研究方法を設定する際は、質的研究方法を推奨していくが、その研究方法の基盤となる哲学等も吟味させる。さらに、研究計画書の作成・調査・執筆・発表にあたっては、研究者としての態度や在宅看護の現実認識等について大学院生と議論しながら進め、共に成長する過程を大切にしていく。 (7　北岡英子) 地域で生活する個人・家族・集団そして地域全体を対象にそれぞれの健康課題の解決、予防的支援、地域の健康危機管理、その役割を担う保健師職の人材育成などにおける新たな研究課題に取り組む。新たな看護実践の方法、ケアモデルやシステムの構築など公衆衛生看護実践の質の向上に寄与する研究を指導する。文献検討、計画書作成、研究倫理審査委員会への申請、研究フィールドの開拓、データ収集・分析、中間発表、論文作成までの一連の過程を踏むことで研究能力を高め、学際的な知識を有した研究者、教育者としての実践力を修得できるように指導する。 (8　黒田裕子) 成人期にある人々の健康維持、健康増進、そして、急性・慢性の健康状態の回復とリハビリテーションに関わるあらゆる問題に対して学術的な視点から看護学特有の研究課題を明らかにできるように指導する。研究課題周辺にある既存の知識基盤を批判的に評価し、独創的な研究的視点を修得できるように指導する。自らの研究課題に対してふさわしい看護学の研究方法論を選択することができるように指導する。研究課題を特定し研究計画書に従って一定の研究プロセスを経て、結果と考察を行い、博士学位論文を作成できる能力を修得できるように指導する。 （ ① 荒賀直子) 地域で生活する人々の健康障害に着目し、対象の持つ健康課題の根源を理解し、対象の属性や健康レベルに応じた予防介入支援の場や方法について公衆衛生看護の視点から考察できるように指導する。研究フィールドの開拓やフィールド活動の実践の中から研究課題を見出し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行うなどの一連の研究プロセスを経て、博士論文作成に向けて指導する。研究課題については、概念分析やシステマティックレビューを行い探究することを指導する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
			(9　和田美也子) あらゆる病期にあるがん患者やその家族の体験、ケアモデルの構築、尺度開発など、看護職者のケアの質向上に寄与する研究を指導する。学生自らの関心に基づき、文献検討を踏まえて、新規性のある研究課題を見出し、研究目的に即した研究方法、データ収集、分析、考察、論文作成ができるように指導する。博士論文に取り組む全過程において、研究者としてふさわしい倫理的感受性と態度を養うことができるように指導する。 (10　米山雅子) 小児看護学領域における様々な健康課題や問題を持つ子どもや家族への看護実践経験を通して得た子どもや家族の権利擁護や子どもの主体性を育む看護、療養環境などに関連した研究課題を明確にし、子どもや家族の健康課題や問題の解消、小児看護実践の質の向上に寄与する研究に取り組む。研究活動においては、研究フィールドの開拓、研究目的を明らかにしうる研究方法論、対象者への倫理的配慮を検討し研究計画書を作成、調査を実施する。データ収集・分析博士論文作成、成果発表に至る研究プロセス指導する。 (11　小森直美) 保健・医療・福祉の多職種との連携・協働を基軸に、乳幼児から高齢者、終末期まで地域で生活するすべての人々の生活の維持とQOLの向上を追求することによって研究課題を見出し、包括的視点から看護の実践科学に基づいた研究手法を用いて、新たな看護ケアや地域包括ケアシステムの改善・改革・開発に関わる研究が行えるよう指導する。	

学校法人 徳洲会　設置認可等に係る組織の移行表

令和3年度

	入学定員	編入学定員	収容定員
湘南鎌倉医療大学			
看護学部			
看護学科	100		400
計	100		400

令和4年度

	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
湘南鎌倉医療大学				
看護学部				
看護学科	100		400	
計	100		400	
湘南鎌倉医療大学大学院				大学院の新設
看護学研究科				
看護学専攻博士前期課程	6		12	
看護学専攻博士後期課程	3		9	
計	9		21	